

山村留学に続く新たな地域交流で集落の担い手・支え手づくり

新城生活圏(かつらぎ町)

基礎条件

【人口】122人
【高齢化率】46%
【世帯数】55世帯
(うち1人暮らし22世帯)
【地域内の産業】農業(米)
第1次:第2次:第3次
35%:13%:52%

【生活環境】

金融機関:毛原郵便局(紀美野町長谷毛原)
JA紀北かわかみ新城グリーン店
学 校:渋田小学校(東渋田)、笠田中学校(笠田東)
医療機関:県立医科大学附属病院紀北分院(かつらぎ町妙寺)
紀美野町長谷毛原診療所(紀美野町長谷毛原)
交 通:中核都市が通勤圏内
(橋本市まで約40分、和歌山市まで約1時間半)
かつらぎ町コミュニティバス(笠田駅まで7往復/日)

【宿泊施設】リバーサイド新城キャンプ場
たまゆらの里(紀美野町)

【町営住宅】4戸

【地域おこし協力隊】1名受入れ予定(H27秋頃～)

【本地域の特徴】

全国に先駆けた「山村留学」の取り組み

・里親制度による受け入れ
・過去30年間の卒業生は454人
※地区内の小学校はH24に廃校

問題認識

- ・地区内の小学校が廃校になり、従来どおりの山村留学の受け入れが困難。
- ・高齢化に伴い、地域行事等の運営が厳しい。



若い世代を地域に呼び込む必要がある。
移住者を受け入れるとともに、地域に関わる人を増やし、賑わいを取り戻したい。

1. 人を呼び込むきっかけづくり

- 山村留学卒業生同窓会
- 短期山村留学の受け入れ
(親子で山村留学、大人の山村留学)
- 移住者等と地域の交流イベント
- 大阪樟蔭女子大学との提携

2. 魅力アップに向けて

- 地域のみどころ看板、ガイドマップ
- 地域食材による健康レシピ、産品づくり
→ 山村留学の呼び物メニューに
- 旧新城小学校を活用した拠点づくり【かつらぎ町】
- 遊休農地で野菜栽培
→ 山村留学への食材提供、「ふるさと宅急便」
- 耕作放棄地を花畑に
→ 地域の景観美化
- 安心な暮らしのための独居高齢者見守り体制の整備

3. 移住につなげる

- 空き家の調査
 - 農地・空き家の斡旋
 - お試し住宅整備
- 【かつらぎ町】

これまでの
山村留学
新たな
山村留学

現在の住民

山村留学の
卒業生等が
新たな支え手に

近隣在住の集落出身者等

遠方在住の集落出身者
山村留学卒業生等

目指す姿

- 地域内に新たな移住者を呼び込む
- この地域に思い入れを持つ人を増やし
地域の担い手・支え手となる人の裾野を広げる

【事業期間】

平成27年秋～平成30年3月

【事業主体】

新城寄合会、かつらぎ町

【予 算】

和歌山県過疎集落再生・活性化支援事業

全体事業費 24,977千円

うち県 8,039千円